

R 4 年度 市川小校内研究の概要

1 研究主題

小中 9 年間を見通した、地域で育つ安心して学び続ける児童の育成
～教科担任制を主軸とした小中連携教育の研究を通して～

2 主題設定の理由

社会の在り方が劇的に変わる society5.0 時代の到来と新型コロナウイルスの感染拡大など予想困難で急激に変化する時代の中で、育むべき資質・能力を明確にし、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに協働性を発揮して、持続可能な社会の作り手となりうる人材の育成を目指している。これらは、小学校だけでできることではなく、保幼小・小中・中高、そして社会的・職業的自立へと連続した学びの中で育てていかなくてはならない。そしてそれらは、地域の中で中学校までの 9 年間を見通した系統的な指導の中で育まれていく。

市川小学校においては、令和 4・5 年度山梨県教育委員会「教科担任制推進事業」の研究推進指定校として、「教科担任制」について研究を進めていく。小中学校の円滑な接続を図ることができるよう、市川中学校区の研究指定校、市川小・市川東小、市川中の 3 校で行っていく。合同研究会の実施、研究授業を通じた専科加配についての研究、アンケートを主軸とした検証により、教科担任制による効果や課題を研究していくこととなるだろう。

国の方針に則り、令和 4 年度から小学校高学年に教科担任制が本格的導入となる。これにより、教師の専門性を活かした授業の質の向上や実情に合わせてカリキュラムを工夫していくこととなる。主に、外国語・理科・算数・体育が優先的に専科指導の対象教科となっている。教科担任制の対象は高学年となっているが、低中学年への影響についても研究していきたい。

また、教科担任制の導入形態として、国では以下の 4 点が示されているが、県の意向として、可能な限り①・②の形態について実施・研究していくことを要望されている。

- ①学級担任間の授業交換
- ②特定教科における教科担任制
- ③中学校並みに完全教科担任制
- ④学級担任との T T

教科担任制を主軸に小中連携について研究を進めていくことで、授業の専門性が向上し、児童の心境の変化や理解の定着が図られるであろう。そして、昨年度も研究してきた小中ギャップの解消にもつながることが期待される。また、複数の教員で多面的に児童を見ることで、より深い児童理解も可能になる。さらに、担任が行う授業が限定されることで、授業準備の効率化や業務の質の向上が期待される。これらは児童の学力と意欲の向上、児童の見取りの深まりによる学級経営の改善、中学校との円滑な連携、教員側の働き方改革へとつながっていく。そうすることで、児童一人ひとりが安心して学習に取り組み、確かな学力と意欲をもち、安心して進学していけると考え、本主題を設定した。

現時点で決定していることは、昨年以前に引き続き、外国語専科教員として志村先生が、3～6 年の外国語を担当。理科専科教員として、小林先生が市川小、市川東小の 5・6 年生の理科を担当する。（週 1～2 時間市川中の授業参観も行う）

3 研究目標

小中9年間を見通した、地域で育つ安心して学び続ける児童の育成を目指し、小中連携を主軸とした教科担任制について、その内容と指導の工夫、制度の有効性について研究する。

4 研究仮説

先進校の研究や市川中学校区での3校での実践の検証を基に、教科担任制についての研究を深めることで、小中9年間を見通した、地域で育つ安心して学び続ける児童が育つであろう。

5 研究内容

＊児童の意欲・学力を向上させるために導入すべき教科担任制の在り方

＊多面的な児童理解・小中ギャップ解消による児童の不安解消

＊小学校教師の負担軽減をするための効率的な時間の使い方について

【理論研究】

・文部科学省・県の推進事業からの学習

・講師招聘による学習会

【実践研究】

・小学校高学年での教科担任制の実施と3つの課題の解決策の検討。

〈課題1〉導入すべき教科の検討

優先的に専科指導の対象とすべき教科を導入する際のカリキュラム、専科指導による学力の影響について調査・研究する。←今年度は、焦点化の観点から、この研究は行わない

〈課題2〉児童の不安の解消

専科指導の導入による児童の心境の変化についての実態や、複数教科による多面的な児童理解のための情報共有の体制について検討する。小中ギャップの解消についても引き続き研究を進める。

〈課題3〉効率的な時間の活用

教師の持ちコマ数の軽減が授業準備の効率化や業務の質の向上に対する影響、空き時間の効率的な活用の方法について検討する。

〈課題4〉専科加配による中学校と連携した深化した授業の研究

理科専科を中心に、中学の先生と連携し、授業を共同で組み立てることによる系統的な指導の研究と、専科加配の成果と課題を明らかにする。

6 研究方法

・市川中学校・東小学校と3校で合同校内研を設定し、共通理解を図り推進していく。

・プロジェクトチームに分かれ、中人数で研究を進める。

・講師を招聘して教科担任に関する学習会を行い、共通理解の下、研究を進める。

・先進的な取組を行っている学校の公開研究会や研修会などへの参加体制を整える。（Web上も含む）

・日常の実践を大切にし、互いに学び合う環境を作る。

・昨年までのUD・ICT・みさと学・小中連携の実践を引き継いでいく。